

保護者様

ときわみなみの幼稚園

園長 小畑 圭子

令和2年度学校評価報告について

今年度も、学校評価のご報告をさせて頂き、以下の学校評価のねらいを達成できるように、今後もこれまでの取り組みとともに公の教育を担う学校として、自らを振り返り、自らの理念が独善に陥ることのないよう、子どもたち、保護者様、保育者の幸せと育ちにつながるように質の高い幼児教育を行ってまいりたいと思います。

学校評価のねらい

- ・教育活動その他の幼稚園運営について、具体的な目標を設定し、その達成状況を整理して取り組みの適切さを検証し、自己評価を致しました。
- ・関係者評価委員会を設置（当園における保護者、卒園児保護者、地域における教育関係者）より幅広く、且つ的確なご意見、ご指導を賜り「令和2年度学校評価報告書」を作成し合わせてホームページに公表しご報告させていただきます。

令和2年度の学校評価は次の内容でまとめました。

- ① 自己評価結果報告書
- ② 教職員自己評価
- ③ 保護者アンケート調査

令和2年度 自己評価結果報告書

1. 本園の教育目標・方針

【教育の目標】

- ・豊かな自然体験で「素直に感じる心」を育みます。
- ・遊びや生活の中で、「感性や表現力、思考力やコミュニケーションの力」などを育みます。
- ・異年齢の関わりを通して、年下の子どもたちへの「思いやり」や年上の子どもたちへの「憧れ 大きくなることへの期待」などを育みます。
- ・生活の中で使う言葉や絵本などを通して、「見る・聞く・話す力」をしっかりと育みます。

【教育の方針】

遊び保育から学ぶ「遊び保育」を柱とし、「主体的・対話的で深い学び」を育み小学生へと繋げていきます。子どもが「おもしろそう」「やってみたい」と感じ、意欲的、主体的に関われるような豊かな環境を、意図的、計画的に構成していきます。

また一人ひとりの子どもに対する理解と配慮を大切にしていきます。

2. 本年度、重点的に取り組む目標や計画

課 題	具体的な取り組み方法
① 教育の質の向上 保育環境の研究	<ul style="list-style-type: none">•本園の教育目標・教育要領を職員間で共通理解を深め、子どもたちが主体的に活動し遊びがより充実するように、保育環境や援助の在り方を話し合い、研究する。•日々の保育の記録から園児の育ちを職員一人ひとりが視点をもってより一層、幼児理解につながるよう努力する。•園または、教職員にとって必要な研修内容を検討し、計画的に園内外の研修に取り組むことで更なる教職員の資質向上に努める。
② 安全管理	教職員の安全確保に関する共通理解を図る。 保育中、登降園における安全確保の体制 園外保育、行事における具体的な安全管理の取り組み 安全に配慮した園庭、園舎の体制 災害時や不審者の立ち入りなど緊急時の体制
③ 異年齢交流の充実	異年齢の子どもとの関わりを通して、年下の子どもたちへの思いやりや年上の子どもたちへの憧れなどを育む異年齢交流の充実を目指す。 今年度の反省や課題を次年度の活動の中で活かし、異年齢の活動ならではの育ちあう姿を沢山みられるように活動内容の工夫や研究をしていく。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況・総合的な取り組み結果

① 教育の質の向上・保育環境の研究

子どもたちが主体的に活動し、遊びがより充実できるように職員間の共通理解の中で保育に臨んでいた。

学年会議において前週の具体的な幼児の姿を報告し、研究主題や課題を見直すことで専門的な事もふまえ、日ごろの保育に役立てることが出来ている。コロナ禍で園外研修や講師を招いての研修会が出来なかったが、職員間でテーマを決めての話し合いや一年間のクラス運営、子どもの成長の記録の報告の場を設けての園内研修は、各教師の学びの場となった。

新園舎に移行したことで、より良い保育環境の見直しができることは、良いきっかけとなった。今後も子どもたちが安心した環境のなかで、それぞれの年齢に合わせた遊びが発展できるように、学びの場を大切に考えていきたい。

② 安全管理

新園舎の建設に伴って、臨時駐車場でのバスの乗り降りでの危険な箇所を職員で確認し、駐車場、畑横、階段付近に職員を配置することにした。

事故の発生を事前に防ぐために、危険箇所、危険な遊び方などについて職員間で話し合い、共有した。新園舎で腰壁の角に飛び出した箇所があり、子どもの顔があたり怪我につながってしまった。

廊下、保育室すべての角に緩衝材をとりつけた。園舎内、外において常に危険を想定し毎日の安全点検、安全管理、安全指導の大切さを感じた。

春から夏にかけて、マダニの発生が多かったため、子どもが歩く場所のこまめな雑草の草刈り、虫よけスプレーに入っている成分を見直し、マダニ対策用の虫よけに切り替えた。遊びに行く前の虫よけスプレーを徹底した。その後はマダニに噛まれる被害が見られなかった。来年度は早い段階で対策を心がける必要がある。

今年度は、「新型コロナウイルス感染症」の対応に追われたが国や市からの要請に基づき園としての方向性や行事の見直しを行った。保護者には、その都度手紙やメールでお知らせをし、ご理解を頂いた。各保育室に空気清浄機、アルコール消毒の設置し来園者には、検温の協力を頂いた。毎日の保育室の消毒、換気、感染症対策における園児の指導は、職員の共通理解の下徹底できていると感じる。未だ収束しない感染症については、今後も感染症対策の徹底を続けていく必要がある。

③ 異年齢交流の充実

今年度は休園が続き、異年齢交流「にこにこデー」の活動回数は少なかった。活動後は、次回に向けて、より良い関わりや活動ができるように各グループ反省し子どもたちの様子を伝えあった。

遊びの時間のなかでは、異年齢が直接関わって遊ぶ場面が少なく、同年齢で関わる場面も見られたりしたが、同じ空間で過ごすことで年上に対する様々な刺激や憧れを感じたり、年下の子への思いやりの気持ちが育っている微笑ましい姿もたくさん見られた。

一方で年少さんは、いつもの自分のクラス以外の保育室で、不安な気持ちで過ごす子の姿も見られることが、職員間の中で共通の認識である。一人ひとり安心して心地よく過ごせる異年齢交流であるために取り組み方法の見直しをする必要がある時期だと感じた。

教育内容・環境

・戸外あそびからみんなでする活動（体育・リトミックを含む）昼食、室内あそび、帰りの会と子どもたちが見通しを持ち、安心した毎日を過ごせるように一日の流れを大切にした。戸外あそびでは、豊かな自然の中で四季を通じて五感を沢山使い遊ぶ姿が見られた。新園舎からの森を見渡せる環境は、より子どもたちの刺激となった。室内あそびでは、子どもたちがより主体的に遊べるように教師は、子どもの声を大切にひろい、意欲を引き出せる環境づくりを行っていた。

・「新型コロナウイルス感染症」対策において行事の取り組みの変更を行う中で、長年当たり前に行っていた行事の見直しをするきっかけにもなった。

・昨年度の反省を生かし、専門的な畑作り、アドバイスの下、野菜の生長の観察、収穫を十分に体験でき充実した畑の活動を行うことが出来た。この活動は、体験の中から培う「食育」につながる貴重な体験としてこれからも大切に考えていきたい。

・グラウンドが使用出来なかったため裏庭を利用し、遊びの場を確保した。今年度は、畑、冒険の森に行く子がとても多く、改めて子どもたちの探求心、逞しさ、園舎周りの自然の豊かさを見直すきっかけとなった。

子育て支援

今年度は、新型コロナウイルス対策として未就園児教室の活動は、行えなかったが、園庭開放という形ではあるが数回行えたのは良かった。令和3年度より週2回の子育て支援「どんぐりひろば」が開設されるため、子育てに対する不安や悩みを聞き、少しでも子育てが楽しくなるような雰囲気づくりを心掛けたい。

4. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
保育環境の充実 保育の質の向上	<ul style="list-style-type: none">・乳児保育への理解を含め、本園の目指す方向を再確認し望ましい体制を再構築しながら、一人ひとりに丁寧に関わる保育を行う。・遊びを充実させる環境構成の研究。・積極的な研修への参加、充実した園内研修の実施
保護者との連携	<ul style="list-style-type: none">・保護者との信頼関係を築き、幼稚園での様子、成長した姿を伝える。・日々のクラスの様子や幼稚園の取り組みなど、クラス blog、ホームページを更新し伝える。
安全管理・保健管理	<ul style="list-style-type: none">・認定こども園に移行するにあたり「危険管理マニュアル」の作成。。教職員の共有理解に努める。・災害発生時や不審者侵入に際して、自己の役割を各教職員が意識し乳児を含めた園全体の避難訓練の計画、実施を行う。・園児一人ひとりが自分の身を守る大切さを感じ行動できるように指導する。・施設設備及び園舎周辺の定期的な安全点検、危険個所の早期発見、対処の徹底を図る。・教職員の共通理解においての感染症対策の実施。・乳児を含むアレルギー除去食を保護者、教職員で連携、確認をして提供をする。

【学校評価委員の評価・意見交流】

- ・自然環境の素晴らしさを感じた。幼児期に育てたい10の姿は、小学校へ繋がる取り組み（スタートカリキュラム）と捉えている。コロナ収束後には、幼小学校の連携を図り相互理解に努めて行きましよう。
- ・子どもたちが考えながら遊びに熱中しているので友だち同士のトラブルが全く見られなかった。今後は、より地域と幼稚園との情報交換が出来れば・・・と思う。
- ・子どもたちの活動を見ていて「静と動」のバランスが良好であり、先生が子どもたちに掛ける言葉がとても前向きであると感じた。自然に囲まれた園で子どもたちは、遊びながら体力を作り体幹が鍛えられているのだと感じた。
- ・園での様々な経験があるため、放課後家庭において、子どもがゲーム機が無くても自然物を活用して遊ぶ姿に嬉しさを感じている。

【学校評価委員の評価】

- ・「できなくても挑戦する」精神が3年間を通して養われている。
- ・歩くスキーの体験で冬の体力作りも充実し、小学校のスキー授業の導入に繋がっている。
- ・異年齢活動を行っているため子どもたちは、他クラスでも仲が良く思いやりがあると感じる。
- ・にこにこデーでの年少は、新しい環境に慣れるまでに時間がかかるので過ごし方に戸惑いがあったように思う。
- ・冒険の森という素晴らしい環境の中で伸び伸びと元気いっぱい遊ぶこと、それぞれの季節を通して植物や生き物自然の中から子ども自らが楽しみ方や発見を見つけ、そこから沢山の事を吸収していると思う。その中で子どもたちがこうしたい！という気持ちを先生たちが理解しサポートしてくれているのが伝わる。
- ・子どもたちの気づきを大切に下さりそこから調べたり考察する学びのルートを作っていくのが素晴らしい。幼稚園の「植物図鑑」はその集大成です。
- ・野外の自然活動が充実しており、子どもたちの成長に大きく良い影響を与えている。専門的な畑作りから観察、収穫など現代の子どもたちに必要な食育を、直接体感できる貴重な環境が整っているので最大限に活用して欲しいと思う。
- ・幼児教育の中で大切な、子どもの主体性を育むという点が職員全体の共通理解として実践していることが何より素晴らしいと感じる。また遊びを通して生きる力を育てていることが子どもたちの自信につながっており、保護者の安心感にもつながっていると思う。
- ・今年度はコロナの関係で今までとは違う形での行事となったが、全てを中止にするのではなく出来る限りの感染症対策を考えて開催してくれたことに感謝しています。丁寧な連絡や報告があり戸惑いや不安を感じなかった。
- ・園に行って親同志の交流の機会が減り、寂しく感じる親御さんもいるかもしれませんが、本来あるべき幼稚園で子どもたちと先生たちの関わりに集中できて良かったと思う。
- ・気持ちの良い芝生に座りながらの運動会、ライブ配信ありの発表会！とっても良かった。
- ・行事などの在り方も学年ごとに行ったり、時間を分けて行うやり方も今の時代には合っていると思う。
- ・どの先生も専門性が高く、綺麗な言葉で小さな成長もよく気づき、認めてくださるお陰で、子どもたちの自己肯定感が高まっていると感じる。太鼓での名人の証しなど、てまひまを惜しまない工夫がモチベーションとなり楽しく取り組んでいた。

- 連絡もアプリ化によりとても過ごしやすかった。
- クラスの先生をはじめ他の先生方まで声をかけて下さり、園全体で見守ってくださっている様子がある。
- 先生たちの子どもを大切に思う気持ちがしっかりと伝わってくるのが「ときわみなみの幼稚園」の最大の魅力です。

• リトミックやアートに触れる活動から、感性が豊かに育っていると感じる。

• 保育室が狭くなったのが気になったが、見学させて頂き思っていたより狭さを感じなかったので安心した。

各学年ごとに製作に使えるものが揃えられていて子どもたちが使いやすいように工夫されていると感じた。

• 教職員の自己評価からもそれぞれが課題意識を持ち、目標に向かいプロ意識を持って子どもたちや保護者と向き合っていることが伺える。ぜひ機会があれば、子どもたちや仕事に対する愛情を直にみてみたいと思う。次年度からは、認定こども園になるということで、園に通う子どもたちが、今よりもっと多くの大人と関わることになり、子どもたちの成長によりプラスの部分が増えていくことを期待します。

• ぜひまた来年度も様々な形で連携、協力させて頂きたい。子どもたちの安全管理、家庭環境等、情報共有をさせていただき、地域の子どもの成長に寄与出来ればと思っています。

• 自己評価を拝見し、非常に良くフィードバックされており具体的な課題を持っていると感じている。

• 小学校も新しくなりますが、交流などを通して小、中学校への憧れや、にこにこデーなどの縦の繋がりを来年度は、もっと体験できる状況になるといいと思います。

• 保護者の研修会や講演会も出来るようになると、親として一人の大人として子どもにどのように関わるといいのか勉強になるので楽しみにしています。

自己評価 —教職員—

<p>I 保育の計画性</p>	<ul style="list-style-type: none">・園の教育理念・教育目標の理解・幼稚園教育要領の理解・教育課程の編成・指導計画の作成・環境の構成・評価・反省
<p>保育の計画性でよく出来ていると思ったこと</p> <ul style="list-style-type: none">・学年会議の中で週の計画や学年でやらなければいけないことを確認し取り組んでいる。・新園舎になり環境設定や物の使い方など子どもたちと見直すことができた。・子どもたちの成長、興味関心に合わせて遊び込める環境設定を考えることが出来た。・遊びを中心とした生活の流れをくずさないよう、行事へ向けての活動や行事の時間帯など考えられていると思う。・「新型コロナウイルス感染症」のため、臨時休園があり計画していた通りに保育は、進まなかったがその都度かたちを変え行事を行うことが出来て良かった。・週案を見て自分の中で課題や目標を決めたことは、良かった。・長期的な目標として「自分たちで考えられるクラス」を作っていきたいと思って過ごしてきた。・行事や日々の生活の中で子どもたちが考えられる環境を作るために教師は、あえて答えを言わずヒントを与えることを実践すると、子どもたちは、少しずつ考えられるようになっていった。最初は、トラブル続きだったがそこで教師が答えをだしていたら、この成長は、みられなかったので根気強く伝えてきたことが今の結果となっている。・子どもたちの日頃の様子を見て、興味、関心のあることに関連した環境構成を心がけた。・新園舎に移行したことで、環境構成について一人ひとりがより深く考え構成できたと感じ、主体的に遊び込めるようになった事を実践から、子どもの姿を知ることができた。 <p>課題と思ったこと</p> <ul style="list-style-type: none">・他の学年や他の先生の保育や考え方を聞いたりして、もっと保育の質を高めたい。・園の教育理念や教育方針を深く理解することが課題である。・行事に関してもう少し計画的に準備出来たら良かった。今年度は、運動会と発表会が続いたので自分なりにやることの優先順位を考えられるようになりたい。・まだまだ未熟なため、先輩方の保育を見る場があると、様々なやり方を吸収でき、成長に繋がると感じた。	
<p>II 保育の在り方、 幼児への対応</p>	<ul style="list-style-type: none">・健康と安全への配慮・幼児理解・指導とかかわり・保育者同士の協力・連携
<p>保育のあり方、幼児への対応でよく出来ていると思ったこと</p> <ul style="list-style-type: none">・登園した時に、体調を見たり、ほかのクラスの子どもたちの様子も変わったところがあったら、報告するように心がけた。・常に心がけている事は、幼児に対して、禁止、命令などの声掛けをしないようにしている。子どもたちが安心して、自分の興味が持てる遊びに集中できる環境を作っていけるように、考えている。その中で「だめ！」「～しなさい」などの言葉は、使わず、子どもたちが気づけるように声を掛けるようにしている。・子どもたちが自分たちで考えられる環境をつくる中で、教師が注意してしまえばすぐに解決できることが沢山あるが出来る限り答えを出さずヒントを与えられるようにする。ケガにつながりかねない場合は見極めることが必要と感じている。・週案を見て自分の中で課題目標を決めたこと。・子どもたちの自信がつくような声掛けや一人ひとりにあった対応をしたこと。・視診を大切に子どもの小さな変化を見落とさないように心がけた。・子どもたちの活動を見守り、見通しを立てて言葉かけをすることを心がけた。・子どもたちと沢山会話をしたり、見守ることで一人ひとりの事を理解できるように心がけた。・登園時に個々に声がけをして様子を見ること、スキンシップも同様にする。様子がいつもと違うときは、気をつけて経過を診るようにしている。	

- 子どもへの声掛けは、肯定的な言葉を心がけ自信を持って生活できるよう心がけている。
- スキンシップを大切に子どもが崩れたときやなかなか言葉が出てこない時は、根気よく寄り添った。
- もう一度自分の保育を思い起こし幼児の行動や心の動きを探ってみるとともに教師自身の関わり方や感じ方を振り返ってみることを意識している。
- 一人ひとりへの関わりの中で、よく観察しありのままの姿を受け入れること、子どもの話をよく聞くこと肯定的な言葉で関わる姿が様々な場面で見られたこと。保育者一人ひとりの意識が回り保育者の意識へとつながっていた。
- 学年会議の中で様々な事例が上がるがとても深い学びとなる事例も多い。
- コロナ禍のなかで保護者とじっくり話しあう機会が少なかったが、それぞれの家庭環境を把握しどの職員もしっかりと子ども・保護者としっかりと関わり、より良い関係を築いていると感じている。
- ありのままの子どもの姿を受け止め、保育での悩み、子どもの事についての相談を周りの職員に伝えることが出来る環境が整っていると感じる。

課題と想ったこと

- 教師間で本音で語り会える雰囲気をつくる。
- 様々な事例を取り上げて、子ども理解に対して保育者の共通理解を図る。
- 異年齢で関わる時間の見直しが必要かと思った。定期的に行えるようにしないと、集まっても年少は特に不安に感じてしまったり不自然な時間になっているように感じる時もあった。
- 遊びのヒントやアイデアを保育者からもっと提供すること。
- 自己肯定感が高まるような経験だったり、声掛けなどをもっと工夫して関わっていききたい。

Ⅲ 保育者としての 資質と能力

- 専門家としての能力・姿勢・義務
- 組織の一員としての在り方
- 保育の楽しみ・喜び

保育者としての資質と能力でよく出来ていると思ったこと

- まずは、教師から一人ひとりに明るく、挨拶するよう心がけ、子どもたちから気持ちの良い挨拶ができるような関わりをした。
- 能力といった部分は、正直実力不足と感じているが、子どもたちが好きで、愛情を持った関わりをしている自信はある。一人ひとりの苦手な部分より良いところをしっかりと見られるよう、保育している。
- 挨拶・身だしなみ・清潔さに心がけた。周りにも子どもたちにも感謝の気持ちを言葉で伝えるように心がけた。
- 副担任と今日あった事や困りなど話しをして共有している。
- 一人ひとりの子どもの性格を把握しその子にあった対応ができた。
- コロナウイルスの影響もあり、日々の保育室の清掃や消毒を丁寧に行った。
- バス添乗や子どもの送り迎えで保護者にあつた時積極的にコミュニケーションをとった。
- 学年会議の中で色々な情報を共有したり専門的な話しができています。

課題と想ったこと

- 今年は、コロナウイルスで研修の中止が多かった。保育をするうえで疑問に思つたことを大切に過ごしたい
- 自分なりに少しづつコツを掴んでいると思うがやはり先輩方をみると凄い！と感じる。色々な先生の保育を見て良いと思つたところを自分なりに盗んでいきたい。
- 専門知識を身につける為、自ら学ぶことが必要だと思つた。
- 社会情勢に目をむけ情報を得るようにしたい。
- 効率良く動き、スムーズに保育を行うこと。
- 常に子どもたちをひきつけ楽しませることを考える。

<p style="text-align: center;">IV 保護者への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 情報の発信と受信 • 守秘義務の遵守 • 対応上のマナー・心がまえ • 要望への対処の仕方
<p>保護者への対応でよく出来ていると思ったこと、</p> <ul style="list-style-type: none"> • 登園する時に泣いた子や、心配ごとがある家庭には、一日の様子を伝えるようにした。 • 保護者が不安に思ったことに対して寄り添い、受け止めることを心がけた。 • 子どもが頑張っている姿や苦戦している姿をエピソードを交えて保護者に分かりやすく伝えるよう心がけた。 • 言葉使いに気を付け様子を伝えることを心がけた。 • ブログ更新で日々の様子を伝えることが出来た。 • 保護者との連絡、情報交換をもっと出来るとよいと思った。 • 話す機会の少ない保護者に子どもの様子や子どもと自分自身の関わり方を話す機会を作りたい。 • 個人懇談などでは、幼児の良い部分、成長した部分を事例をふまえて伝えるようにした。これからの課題についても、今までの関わり方、これからどうしていくか、どうなって欲しいかをしっかり伝え改善策も伝えられるように意識した。 • 決められた時間は、しっかりと守れるように時間配分を考えることが大事だと感じた。 • 保護者が見ていない普段の保育の在り方こそ保護者対応の基本と理解している。プロ意識を持ち臨む気持ちを大切に、安心感を持ってもらえる様、保護者への共感、傾聴の気持ちを常に心がけている。 • 日々のブログでクラスの様子を伝えたり何かあったときは、電話をしたり、直接伝えたりと職員一人ひとりが丁寧に関わる体制が整っている。 • コロナ禍において、現在の情勢を把握し適切に対応できるように心構えをしている。 • 感染症に関して、保護者への情報の提供や周知の大切さを感じている。 • 小さなコミュニケーションを大切に。マイナスな報告の伝え方に注意を払う。 	
<p style="text-align: center;">V 地域の自然や社会とのかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 地域の自然・人々とのかかわり • 小学校との連携 • 子育ての支援と地域への開放
<p>地域の自然や社会とのかかわりでよく出来ていると思ったこと、</p> <ul style="list-style-type: none"> • 出勤時やお散歩に行った時など、地域の方に会ったら挨拶を心がけた。また来訪者にも笑顔で対応した。 • 子どもたちと自然の移り変わりに触れて楽しんだり、製作をして楽しむことが出来た。 • 近くの公園に行った際に、キノコや花に興味を持ち夢中で探す子もいた。自分たちで図鑑を作ったり調べたり興味を持つ姿が見られた。 <p>課題と思ったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> • 今年は、コロナ感染症の為、幼小交流や高齢者との交流が出来ず残念だった。 • 収束後は、北方自然教育園に行ったり公共施設での過ごし方の体験をさせてあげたい。 • コロナ禍で小学校との連携、園外など全く行うことが出来なかった。今後コロナ禍でどのような方法があるのかを考えていきたい。 • 今年度は、幼小交流、地域の高齢者施設への訪問を行うことが出来なかったことは、とても残念でありとても大切な交流であることを改めて実感する。 • 冒険の森に住む鳥を見つけ観察していきたい。(鳥小屋の設置、双眼鏡の利用、鳥図鑑の準備) 	

VI
研修・研究

・保育者の研修・研究への意欲・態度

保育者の専門性の研修・研究でよく出来ていると思ったこと、

- ・オンライン研修を含み、自分自身が学びたい内容の研修を受けることが出来た。
- ・特別支援の研修で子どもが輝ける、安心できる関わり、環境を作るという話にすごく共感が持てた。クラス運営に役立てることができた。
- ・研修で学んだことを保育で生かす努力をしている。
- ・園内における環境に関する専門性の向上の研究。それぞれの構造や位置の教育的意味に興味を持ち知ろうとすること。
- ・外部講師を招いた園の課題に即した研修の充実。研修の内容や成果を職員全体で共有する。
- ・コロナ禍で、オンラインでの研修が多くあったがその中でも自己課題を持って参加し職員の学びにつながった。

課題と思ったこと

- ・意識的な取り組みの中で園内研修の充実を図る。
- ・研修内容を報告書の確認だけではなく、内容を共有する時間が大切と感じた。
研修で学んだ事を研修報告書を読むことだけではなく、自園ではどのように展開できるかを話し合い、共有し保育の向上に生かしたい。
- ・園内、園外研修を活用、充実させ教師の専門性を高めて実践につなげたい。
- ・小さな話し合いでもそれぞれが身になる、学びとなる時間を作ること。